

# 田原小だより



第689号

令和5年1月10日

台東区立田原小学校

校長 佐藤 貴生

## 新しい年を迎えて



校長 佐藤 貴生

**新年 あけましておめでとうございます。**

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えされたことと存じます。昨年は1月6日に東京でも雪が降り積雪もありましたが、今年は天候もよく家族や親戚が集まり、楽しいお正月を過ごされたのではないのでしょうか。

2023年の干支は、「癸（みずのと）卯（うさぎ）年」です。十二支や十干は数や方角だけでなく、独自の意味を持っています。例えば「癸」がもつのは、物事の終わり始まりを意味する他、「揆（はかる）」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われています。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるそうです。この2つの組み合わせである『癸卯』には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表していると言えそうです。今年こそ様々な制限の無い日々を過ごしたいものです。

『人が笑うと返事をしながら笑い返してくれる』そんな会話ロボットを、京都大学の研究グループが開発しました。ロボットは人が動かす道具ではなく、自ら動いて人に寄り添う存在になるかもしれません。しかし、うなずきながら相づちをうつ様子は機械にしては自然に映りますが、返事はどこかそっけない。なぜならロボットは人が話す内容を理解して返事をしているのではなく、あくまでも相手の笑い声に反応して笑っているからだそうです。それでも台本の台詞のように笑う従来のロボットとは異なり、相手に合わせて笑うロボットの開発は、海外メディアに次々と報じられました。機械をツールとして捉える海外の人には、ロボットが笑うのは最先端だったのでしょう。実用化を目指しこのロボットを介護施設等でお年寄りに使用してみると「もっと会話で一緒に盛り上がりたてたい。」との感想が多数出ました。そこで研究グループはロボットが共感を示す手段として、ポジティブな感情表現である笑いを選択。その中でも特に「同調笑い」に着目しました。①大きく笑う。②愛想笑いにとどめる。③同調せずに笑わない。の3パターンに分類し、AIに機械学習をさせることで、どの笑い方が適切かを判断させるようにしました。この同調笑いを使いわけることで全てに笑って返す場合と比べてロボットはより人間らしいと感じる人が多かったそうです。

人と人がコミュニケーションをとる上で、笑顔はとても重要であると改めて感じます。マスクをする生活も、登校時や運動時、さらに室内でソーシャルディスタンスを保てる時は外してもよいと変わってきました。そのような時は、友達同士や先生とも笑顔がたくさん通い合わせたいです。ぜひご家庭でも、マスクをとった笑顔で子供たちをたくさん包んであげてください。

本年も田原小学校の教職員一同は「チーム田原」として力を合わせ、子供たち一人一人を大切に見つめながら、保護者や地域の皆様の信託に応えられるよう教育活動を推進します。引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## あいさつパワーで元気に過ごそう！

生活指導部 高橋 浩之

12月の生活目標は『清潔な生活を心がけよう』でした。具体的に「手洗いをしよう」や「清潔なハンカチを持とう」という週目標を立てて各学級で声をかけました。休み時間が終わった後の手洗い場では、病気の予防のためにしっかり手洗いをしハンカチで拭く様子が見られました。まだ風邪を引きやすい時期が続きますので、ご家庭でも手洗いとハンカチの声かけをよろしく願いいたします。

1月の生活目標は『気持ちのよいあいさつと返事をしよう』です。田原っ子の中には、進んで元気よく挨拶をしてくれる子がいます。さらに「高橋先生、おはようございます。」と名前まで呼んで挨拶をしてくれる子もいます。そのような挨拶をされるととっても嬉しいです。1日を元気に明るい気持ちで過ごせそうな気になります。そのような素敵な挨拶が学校中に広がっていくように、今月は、みんなで挨拶をしようことを特に意識して生活できるよう声をかけていきます。